

# ウムチョ ムウイーザ通信 No. 27

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。



## ウムチョムウイーザ学園からの報告

日本の支援団体であるルワンダの教育を考える会理事長  
学園の運営母体である現地NGO「ADESOC」理事

カンベンガ・マリールイズ

2010年9月26日から10月10日までルワンダに帰国し、ウムチョムウイーザ学園を訪問してきましたので報告します。今回は寄付していただいた英語の絵本を学園に届けてたくさんの笑顔に出会うことができました。また、滞在中に孤児だった二人のミュージシャンのコンサートを学園で開催することも出来ました。

さらに、校長より下記の取り組みも聞くことができました。

### 1 自立に向けての取り組み

○ 日本から送られたバスが故障していましたが、ようやく修理し車検も受け、子ども達の遠足に使えるようになり、湖やジェノサイド記念館や歴史資料館を見学できるようになりました。

また、このバスを利用して、夜間大学生の送迎や、バスをセットで多目的ホールをイベントに貸して収入を得ることも出来ました。

○ 小さな売店を設置し、先生方や近所の人達に向けて石鹼・お米・砂糖・塩・ノートなどやランチも安く販売して役に立ちながら利益を生む取り組みをしています。この売上げにより教職員の家族を雇用できるようになって来ました。

○ 教職員住宅に電気配線工事をして8万ルワンダフランの家賃収入を得ています。

○ 敷地内に近所の人たち向けにデジタルアンテナを設置して、レンタル収入を得ています。

### 2 ウムチョムウイーザ学園の子ども達の頑張り

○ 国際支援団体ワールドビジョン主催のエイズ撲滅キャンペーンのコンクールに参加し、見事優勝し賞品はテレビ・DVD・プレーヤー・ダンスの衣装でした。

○ 警察官の仕事に詩で表現する全国大会に参加し、これも見事に優勝して携帯電話と1万ルワンダフラン分の通話料を賞品としていただくことが出来ました。

### 3 地域社会の中の役割について

○ 今回当会のコンサートの収益を元に、大人向けにパソコン教室を始めました。指導者はカナダのNGOから援助をしていただき、1ヶ月間で30人を目標にしています。

○ 今回当会のコンサートの収益を元に、多目的室の床をコンクリートで改装して外部の会議に利用できるように整備が進んでいます。

○ 地域住民が気軽に利用できるような日用品を充実した売店をめざしています。

○ 学園内で家具の修理や販売を出来るように企画中です。



日本から贈られた英語の本



マニ&マルテン コンサート

日本からの支援でここまで学園を運営することが出来たことに感謝するとともに、これから、授業の充実はもとより地域社会に必要なとされる学園をめざして、一つ一つの課題をクリアして自立へ向けて頑張っているようです。

これからも、子ども達の夢の実現のためにやれることを末永く続けてゆきたいと思います。

ご理解のうえどうぞよろしくお願い申し上げます。

ウムチョムイーザ学園の2010年度2学期（4月19日～7月23日）の会計報告  
 2010年度(2学期)の学費の納入状況の報告 2010.8.22

単位:人 \* 時価換算による。単位:円

納入 状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
補習料							19	22	22	63人	43,137
100%	6	10	18	13	13	18	22	25	25	150人	924,358
その他	6	8	5	1	10	4	7	9	10	60人	204,858
0%	3	1	4	2	5	6	6	6	6	39人	0
合計	15	19	27	16	28	28	35	40	41	249人	1,172,353
予定額											1,583,733
不足金額											411,380



〔収入〕

〔支出〕

項目	金額	項目	金額
学費	1,172,353	職員への給料	1,193,269
日本(考える会)からの支援	898,641	光熱費	287,597
入学登録料	822	通信費	20,563
バス運行収入	0	コンピュータ5台	96,907
水販売収入	6,848	印刷・消耗品	121,279
家畜の収入	4,793	車の維持費	88,875
その他の収入	47,615	会議・研修費	37,173
NGOからの寄付	0	維持費	16,762
個人からの寄付	0	他のサービス	171,373
		備品	61,281
		前借り金	3,424
		偶発事故への経費	60,391
		税金	109,002
合計	2,131,072	合計	2,267,896
		残金	▽136,824



幼稚園の年長組みの子ども達が、青年海外協力隊の加藤さんと一緒に日本から送られた鍵盤ハーモニカを楽しそうに演奏しています。



福島から送られた英語の絵本が、今回学園に訪問した時に、箱から開けて、子ども達に、手渡すことが出来ました。

ルワンダでは、経済的事情から教材がとても不足しています。今回いただいた絵本は学園で子ども達にたいへん喜ばれました。福島の子供達が使った絵本が、地球の裏側で大切に大切に使われます。

# ウム千ヨムィーザ学園小学校卒業生41名の将来の夢



アルベティーネ  
14歳  
看護師になりたい。



アリネ  
12歳  
お医者さんになって孤児や貧しい人を助けたいです。



アナクレット  
13歳  
医師が国を守る職業につきたい。



アンジェ  
12歳  
裁判官か警察官かジャーナリストになりたい。  
そしてルワンダの歌やダンスも楽しみたいです。



エンジェル  
13歳  
ビジネスマンになって孤児や貧しい人を助けたいです。



アニック  
11歳  
看護師になりたい。



ボーラ  
17歳  
大統領か医師になりたい。



クリスティン  
17歳  
ミュージシャンかジャーナリストになりたい。



シンティア  
14歳  
産婦人科の医師になって命を助けたいです。



ダーリン  
13歳  
私の夢は人々を助ける精神科医になりたい。



ディローバ  
13歳  
医師かジャーナリストになりたい。



ディオスコール  
13歳  
医師が国を守る職業につきたい。



エルビス  
13歳  
医師になりたい。



エメランセ  
11歳  
お医者さんになって孤児や貧しい人を助けたいです。



エマニュエル  
12歳  
ピアニストか医師になりたい。



エルネスト  
12歳  
医師かエンジニアになりたい。



エステル  
12歳  
病人を助ける医師か歴史家になりたいです。



ファブリッセ  
13歳  
ビジネスマンになって貧しい人々を助けて国を発展させたい。



フィアクレ  
13歳  
国を守る職業につきたい。



フレティ  
14歳  
デザイナーか映画監督になりたい。



ジャンティーエ  
15歳  
ジャーナリストと孤児を助けるのが私の夢です。  
賛美歌も歌いたいです。



ジェームス  
12歳  
日本とルワンダの友好を深めたいです。





ジャンピエ  
12歳  
剣道の先生に  
なりたいです。



ジャンダ  
16歳  
国を愛するリ  
ーダーなりた  
いです。



ジャンポール  
15歳  
平和を作る人  
になりたいです。



ジャンピエレ  
12歳  
お医者さん  
になりたいです。



ジョゼリネ  
16歳  
上院議員に  
なりたい。



リディア  
14歳  
エンジニアか  
ジャーナリスト  
になりたい。



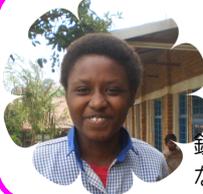
マリー  
14歳  
医師に  
なりたい。



ナキタ  
11歳  
警察官になっ  
て孤児を助けたい。



ナタリヤ  
12歳  
病気の子どもを  
助ける医師にな  
りたい。  
賛美歌を歌う歌手にもなりたいな。



ナウメ  
14歳  
牧師か  
銀行マンに  
なりたい。



オリビエイ  
14歳  
大使に  
なりたいです。



パトリシア  
15歳  
聖歌隊の歌手と  
先生になりたい。



ピーター  
12歳  
医師にな  
りたいです。



プリスラ  
12歳  
国を守る職業  
あるいはバス  
ケット選手あ  
るいは国会議員  
になりたい。



レジーネ  
13歳  
ジャーナリスト  
になりたい。



サンドウリナ  
12歳  
ジャーナリストと  
ゴスペルの歌手  
になりたい。



ソランジェ  
15歳  
正義の味方  
の裁判官に  
なりたい。



シルビイ  
13歳  
貧しい人を助け  
る女性大統領に  
なりたい。



イプエ  
12歳  
エンジニア  
になりたい。



年齢は、それぞれの事情で  
違いますが、応援してくださ  
った皆様に感謝して、夢に向か  
って旅立ちます。

2010.10.29 卒業式





## ルワンダを訪問して

「すべての命が輝いてほしい」

会員 戸澤京子

私は、10日余りの短い時間の中で、実に様々な子ども達の姿を見て、自分の感情をどう整理していけばいいのかわかりませんでした。望まない妊娠で出産した子供を健気に育てている若い母親、学校に通い勉強している子供、私たちが車から降りてくるのを待ち構えてお金を求めて寄ってくる子供、学校に通えずに家の手伝いをして一日を過ごす子供。



その背景には、貧困はもとより、理由の如何に関わらず妊娠の中絶は刑罰に値すること、男性の慣習として婚外子は拒否の姿勢をとることなども大きく影響していることがわかりました。命を生み育てるということはどういうことなのか、もっと知ってもらいたいと切に願いました。そして、出会った子ども達が妊娠や出産で命を失ってほしくないと思いました。

私達は、いろいろな物から毎日実に多くの情報を得ています。それができるのは、文字がわかるからだとして改めて実感しました。情報過多の中で、自分を見失いそうになることもあります。それ以前に、義務教育のおかげで、情報に対し自分なりの判断をする考える能力が得られたのだとわかりました。教育ってすごいなと思いました。

ルワンダは現在6年間の義務教育が定められており、まもなくその期間も9年間に変わろうとしています。しかし、前述のように実際には教育を受けることができていない子ども達がたくさんいます。今後子ども達が平等に教育を受け、同時に多くの情報に触れ、自分で考え選択する力を養えるような土台作りの援助をしていきたい、と切に願いながら帰国の途に着きました。



## 当たり前を見直す

福島大学 安藤愛華

『空を見上げて』を読み、今の日本の特に若者が“当たり前”と感じているであろう「学校へ行けること」「学べること」の大切さを見直すきっかけができました。

ルワンダの内戦について、私は高校で地理を習っていたため、その事実があったということだけは知っていました。しかし、筆者が述べるようにその背景には「教育」が関係しているのではないかなど、考えたことはありませんでした。この本を読み、一番恐ろしいと感じたことは、内戦が発展していった原因の一つに、若者が面白がって銃を持ち、面白半分でどんどん人を殺すようになっていったという事実があったことです。犯罪や違法、良い悪いの判断がつかない子どもたちが面白いという理由で軍隊になってゆく。これは本当に恐ろしいことだと思いました。しかし、もし自分が何の教育も受けていなかったら、と考えると、活字も読めず、考えることもできず、どうやって生きていたのだろうと思いました。自分だって良い悪いの判断ができず、ただ感情にまかせて簡単に他人に手をだしていたかもわかりません。想像すると本当に怖いことです。このような意味でも、筆者が述べているように「学ぶこと」は「生きること」という考えにはとても共感を覚えました。

今ルワンダではすべての子どもたちが学校へ行けるわけではなく、行く場所がない、お金がない、などで教育を受けたいという強い気持ちがあっても受けられない状況にある子どもがたくさんいます。それに比べ日本では義務教育によりすべての子どもたちが学校へ行くことができ、教科書が渡され、給食を食べることができます。このことは本当にめぐまれているし、絶対に当たり前ではないと思いました。

しかし、現在日本の子どもたちの間では、いじめ問題、不登校など、さまざまな問題があります。また、学校に行ってもその時間を大切にできていない。

この様なことは非常にもったいないことだと思います。そしてこれは知らず知らずに学校に行けて当たり前という考えが生まれているからだと思います。

今自分が学べるということが奇跡、当たり前じゃないという意識を持つことができたなら、絶対にその時間を大切にしようとするはず。また、今自分が学んでいるすべてのことに意味を見いだすことができたなら、それをする姿勢も変わって来るのだと思います。

マリールイズさんが記した“当たり前のように”という言葉は私の心に響きました。

当たり前を当たり前と思わない、皆が“当たり前を見直す”という行為ができたなら、どんなこともプラスの方向に変わって行くと思います。

# ルワンダを訪れてみて

東海大学 竹内秀晃

男子4人で半年かけて世界一周の旅をしていたボク達は、2009年10月に2週間ほどルワンダを訪れ、マリールイズさんの実家にお邪魔させてもらった。

正直に言って、最初にしたのはこの国の規模の小ささだった。「えっ？なにこれ、ここが首都なの？ただの村じゃん」っていうくらい、ルワンダの首都キガリにびっくりしたのも事実で、でもこれは日本と比べれば当たり前の話で、比較するほうがおかしな話なのだろうか？いや、でもはるかに他のアフリカ諸国よりも栄えてないんじゃないかな。だけど、他にも気づいたことがあって、それは景観が綺麗であるということ。町中にゴミが落ちていないのには感心しました。また、他のアフリカ諸国で感じた身の危険もまったく感じなかった。でも、一つだけびっくりしたのは、バスの順番を並ぶ時でした。われ先に席を取りに行くあの姿には圧巻されてしまって最初は少し怖かったけれど。(笑)でも、本当に治安がいいなと思えた。

人々はとてもフレンドリーで優しく困ったときには助けてくれる、おまけにとっても陽気！とてもじゃないけど、歴史という長いスパンでみれば最近とも言える1994年に虐殺があったなんて考えられなかった。そういう面影なんてこれっぽちも感じない。本当にここでそんなことがあったのか、そう疑ってやまなかったくらいだ。でも、現実はやっぱり甘くなくて、メモリアルに行けばその残酷さをうかがうことが出来る。ぼくはニヤマタという場所にある実際に虐殺が行われた教会とキガリにある歴史博物館の二つのメモリアルに行ったんだけど「あぁ、ここで実際に虐殺が行われたのかぁ」と到着した教会にあるドロクロと血のついたままの衣服を見て震えてしまった。余りのショックにそこで思考がいったんストップしてしまってなんだか言いようのない寂しさを覚えた。ぼくはルワンダの研究者でもないし、深いところまでは良く知らない。簡単に言える立場じゃないことも分かっているけど、「やっぱり人殺しは良くないな。」って思った。



「でも、なんで今こんなに明るくて平和な空気が流れているんだろう」って疑問がとめどなく湧いてきた。それにそんなに昔の話じゃないのに。当時JICAの青年海外協力隊の久美子さんという方と知り合うことが出来て、詳しく教えていただいたのだけれど、ルワンダ人はすごく前向きであるということが分かった。みんな、本当にみんながああ悲しい惨劇から一度は絶望したものの、立ち上がって前を向いているのだ。その久美子さんが働いていた(宮崎あおいさんも訪れたことのある)孤児院

と一緒に働いていたルワンダ人の青年は「おれの母ちゃん、虐殺で殺されちゃったんだよ、はは」って平気で笑いながら話していた。もちろん気が狂っているわけじゃない。ぼく等の想像を絶する悲しみを乗り越えて、ポジティブに前を向く今があるんだとぼくは思う。その過程は、本当に想像すら出来ない。

実際にルワンダ人は「トゥエンティートゥエンティ」2020年には経済面で南アフリカに追いつくぞ！という目標を掲げてみんなで虐殺の悲劇を乗り越え、0から再スタートしている。私見で言うと、それは本当に難しいことだろう。ぼくの見てきた南アフリカ共和国はもはや先進国であったから。でもルワンダ人は本当に出来ると信じて10年後の未来を見ているようだ。素晴らしいじゃないかルワンダ人！虐殺から十数年、その時から今までのルワンダの進み具合を見てみると、南アフリカなんて目じゃないかもしれないなあ。すぐに追いついて、そしたら今度はパーって追い抜いちゃって、将来はアフリカの経済を語るうえでなくてはならない国になるんじゃないかな。彼らを見ていると、ぼくはそんな風に思えてきて仕方がない。

それと、ルワンダというか、マリールイズさんの周りの人たちに滞在中お世話になっていた。寝床、食事、洗濯といった家事的なものから町の案内といった観光ガイド的なことまで。本当に家の人みんな温かかった。ホームスイートホーム、もちろんルワンダそのものも有意義だったけれど、あの家で過ごせた2週間だったから最高と感ずることが出来た。今日思い出してもぼくの世界一周旅行で一番の想いでこのルワンダなことは間違いない。ルワンダで出会った全ての人に感謝しています。ありがとうございました。

## ルワンダの首都キガリを訪れて

東海大学 小林大介

男子4人で半年かけて世界一周の旅をしていたボク達は、2009年10月に2週間ほどルワンダを訪れ、マリールイズさんの実家にお邪魔させてもらった。

私がこのルワンダを訪れた期間で、最も印象に残っていることは子ども達の姿です。ルイズさん宅の子ども達も、学校（ウムチョムイーザ）の子ども達も溢れんばかりのパワーと笑顔で私達を迎えてくれました。本当にかわいらしい子ども達に囲まれ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

ウムチョムイーザの校長先生と教頭先生から、1994年の虐殺の話をお聞きしました。ルイズさん宅の近所でまさにあの虐殺が繰り返されていた。つい15年前にそんな出来事が起こってしまったなんて考えられません。この紛争後、ルワンダは国を復興させようと尽力しました。その努力の結果、ルワンダの街には平和が訪れ、近代化が急速に進んでいます。内部紛争という歴史があるルワンダという国の中で、これから一番大切なものは学校の「教育」であると、校長先生、教頭先生は口を揃えて話されていました。

「学校の中で共に学び、遊ぶ仲間が出来る。そんな友人達に危害を加える事は決して出来ない。当然のことではあるが、ルワンダにはその思いが一番必要。」先生達の言葉から、ルワンダ国民ならではの、教育に対しての特別な想いを強く感じました。だからこそ、子ども達が学校の校庭で元気よく遊んでいる姿に、特別な想いを抱きました。この光景が、平和な国ルワンダを創り上げていくのだと。ルワンダの子ども達と無邪気に遊んだその経験と時間を、これからも大切にしていきたいです。



# 「ルワンダフルコンサート2010」のご報告

世界中で活動するルワンダ出身のミュージシャンのジャン・ポール サンプトゥさんと4名のダンスチームが来日し、私たちにルワンダ音楽とダンスパフォーマンス、そして内戦をとおして感じた平和と命の大切さのメッセージを下記の日程で届けてくれました。

各地区での皆様方のコンサート準備までのご苦労と当日を迎えての感動を共にすることができ、とても感謝しております。



日付	曜	地区
7月2日	金	福島県南相馬市
7月3日	土	福島県福島市
7月4日	日	栃木県宇都宮市
7月5日	月	新潟市
7月6日	火	福島県喜多方市
7月6日	火	会津若松市
7月9日	金	仙台市
7月10日	土	神戸市
7月11日	日	広島市
7月12日	月	東京都
7月13日	火	神奈川
7月14日	水	高島町
7月16日	金	福島県須賀川市
7月17日	土	福島県大熊町
7月18日	日	新潟県新発田市



6月30日(水)福島県郡山市においてウェルカムパーティーを行い、ここからたくさんの本会実行委員との家族のような関係がはじまりました。

## 【コンサート会計報告】

収入		
コンサート収入	7,119,380	
民芸品販売	681,325	
募金	145,671	
寄付	61,018	
雑収入	35,339	
収入計 A	8,042,733	
支出		
出演料	2,391,997	
滞在費	823,825	
旅費交通費	2,221,797	
会場費	212,933	本会主催会場
通信費	183,330	
仕入れ	499,400	
広告宣伝費	489,285	
会議費	32,770	本会主催会場
福利厚生費	90,392	
接待交際費	4,017	
消耗品費	48,730	
雑費	310,326	VISA 取得 JASRAC 他
支出計 B	7,208,802	
利益 A-B	833,931	
教育支援	600,000	ルワンダへ
残高	133,931	

NPO法人 ルワンダの教育を考える会 PRESENTS!!

10年間の感謝を込めて・・・

ルワンダDAY in ふくしま

## ルワンダフルコンサート アンケート結果

日時 2010年7月16日(金) 開場 16:00 開演 16:30

場所 須賀川市文化センター

当会主催として約1ヶ月サンプトゥさんたちのホームスティや他団体の皆様と同じく須賀川実行委員会を立ち上げ協賛金集め等お迎えする準備にみんなでワクワクドキドキ精一杯頑張ってきました。

当日はたくさんのスタッフが活躍してくれました。お互いに忙しい日常をかかえている中で、販売担当・当日券売り場・駐車場係等・・・チームワークで乗り切ることができました。これからも、よろしく願いいたします。



### ○第1部○

#### ジャン・ポール・サンプトゥさんのメッセージの感想

- ・「仕返しをするのではなく許すことで心の自由も得られる。」このメッセージに感動した。
- ・想像を絶する体験をなさったサンプトゥさん、どれほどの苦悩を味わったのでしょうか。それが許しの心にいたる、人間の素晴らしさに勇気づけられました。
- ・ルワンダの内戦の悲劇をテレビで見ることがあります。とても悲しい気持ちになりました。それを許すことで、自分自身が苦しみから解放され、人を愛することが出来ると言ったサンプトゥさんの言葉が心に染み入りました。
- ・60歳を過ぎて、憎む人を好きになれるよう、お話を聞いてこれから先残りの人生を心豊かに生きていきます。ありがとうございました。

### ○第2部○

#### アフリカンミュージックコンサートの感想

- ・なによりもみなさんの笑顔に、涙が出るほどの感動をもらいました。そんな笑顔をもてるような人になりたいと思いました。
- ♡ 理屈抜きによかった～♡
- ・力強い太鼓の演奏、そしてリズムックなダンス、大いに楽しめました。また、楽しいルワンダの姿もわかりました。
- ・楽しい、みんなと一緒にステージで踊れたのも良かった。
- ・サンプトゥさんが、ステージでルワンダ語で話したことが良かった。英語も話せるのに、英語にしないで母国語で話し続けたことに彼のルワンダ人としてのプライドを感じました。
- ・サンプトゥさんの声が、ソフトで力強くすばらしい!



ルワンダの子どもたちへ

# ルワンダフルクリスマスキャンペーン

ルワンダフルクリスマスキャンペーン期間:

12月1日~12月31日

ルワンダの子どもたちへの募金箱を設置していただける場所を募集します!!

連絡をいただければ設置場所への依頼文を送らせていただきます。

☆掲示板☆

10月16日(土)の臨時総会において、退任された遠藤信子理事に代わり11月1日より大槻美智子さんが理事に選出されました。

## ☆各種振替口座番号のご案内です!☆

会費振込・寄付・募金…毎月の授業料を払えない子ども達のために、継続した寄付をお願いします。

郵便振替口座:02290-0-97126

加入者名:NPO法人 ルワンダの教育を考える会

ソーラー発電…ソーラー発電機で、電力の確保をしたいと考えています。

郵便振替口座:02200-2-77634

加入者名:ルワンダ ソーラー発電P

事務局では、今回会費の納入状況をお知らせしますのでご確認をお願いします。また、事務局ボランティアスタッフ及び各種イベント開催時、お手伝いくださる方を随時募集しています。連絡をお待ちしております。

HELP

(編集後記)

コンサートで出会った人達と新たな輪が広がっています。サンプトゥさんのメッセージが日本各地で根つき始めました。

また、初めて学園を卒業した子ども達が今回中学校を卒業しました。夢に向かって頑張ってもらいたいと思います。

朝晩めっきり寒くなりました。ビタミン愛でのりきりましょう!



ルワンダの教育を考える会

理事長 カバング・リルバ

〒960-8055

福島県福島市野田町四丁目8-20

TEL / FAX:024-533-8289

ホームページ:<http://www.rwanda-npo.org>

e-mail:info@rwanda-npo.org